

有田川水害における災害教訓伝承の 取組みについて

中村 豊¹・有田 貴洋²

¹和歌山県土砂災害啓発センター（〒649-5302 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町市野々3027-6）

²和歌山県東牟婁振興局農林水産振興部林務課（〒647-8551 和歌山県新宮市緑ヶ丘 2-4-8）

和歌山県では過去に歴史的な大規模土砂災害が繰り返し発生しており、和歌山県紀中を流れる有田川では昭和 28 年に有田川水害（紀州大水害）と呼ばれる災害が発生した。有田川流域には、有田川水害の被害状況や教訓を標した「災害伝承碑」が数多く存在しているため、文献等をもとに現地調査を行った。

地域の防災意識を高めることを目的に、調査結果を有田川流域の地域住民に対し伝承を行った。また、地元の人が自分から興味を持って災害伝承碑を訪れるよう、動画や画像付きの位置図を制作した。

現地調査を行う中で、災害伝承碑は場所がわかっても目につく場所がない、もしくは隠れている等といった課題も見つかり、認知されるためには継続的に地元で伝承していくことが重要である。

キーワード 災害伝承, 有田川水害, YouTube

1. はじめに

和歌山県では過去に明治 22 年・昭和 28 年・昭和 33 年・平成 23 年と歴史的な大規模土砂災害があり、中でも昭和 28 年 7 月 18 日に発生した有田川水害（紀州大水害）は県内各地で大きな被害をもたらした。人的被害は約 26 万 2 千人で和歌山県民の約 4 分の 1 に相当する人が被災した。

特に有田川流域（図-1）に位置する市町の被害は甚大で、上流に位置するかつらぎ町花園では金剛寺の崩壊をはじめとする多数の大規模崩壊が発生して壊滅的な被害を被った。また、下流に位置する有田市・有田川町でも、有田川の氾濫により多数の浸水被害が発生した（写真-1）。今後また自分の住んでいる地域で発生するかもしれない土砂災害・水害に備えるためには「過去の災害に学び、生かす」取組みが重要である。¹⁾

有田川流域には、有田川水害の被害状況や教訓を標した「災害伝承碑」が数多く存在していることが文献等²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾から読み取れる。そこで本研究では文献の位置情報や画像を手掛かりに、実際に現地調査を行った結果について報告する。また、地域の防災意識を高めるために、有田川流域の地域住民に対し伝承を行った事例について報告する。さらに、調査結果をもとに地元の人が自分から興味を持って災害伝承碑を訪れるよう、動画や画像付きの位置図を制作したのでこれも報告する。



図-1 有田川流域



写真-1 有田川水害の被災状況写真
出典：和歌山県災害史⁶⁾

2. 現地調査

文献の中には小字名の表記のみで位置の特定が困難なものもあったため、事前にGoogleマップのストリートビュー機能で周辺を調査し、伝承碑と思われるものにめぼしを付け、大まかな位置を特定し現地調査を行った。

また、文献には伝承碑の写真がないものも多く、現地を訪れてから発見に時間を要したものであったり、砂や雑草で隠れて発見が困難なものもあった(写真-2)。

有田川水害の伝承碑の調査を行う中で、昭和より昔の江戸時代や奈良時代に発生した土砂災害・水害を伝えるものも調査を行った。



写真-2 砂や雑草で隠れた災害伝承碑

有田川流域の市町の調査結果は表-1に示す。文献等に記載があるが発見できなかったものも複数あった(表-2)。

表-1 有田川流域の市町の調査結果

有田川流域	調査伝承碑(基)
有田市(保田地区)	3
有田市(千田地区)	3
有田市(宮原地区)	2
有田川町(吉備地区)	3
有田川町(金屋地区)	1
有田川町(二川地区)	2
有田川町(清水地区)	1
かつらぎ町(花園地区)	5
合計	20

表-2 文献に記載があるが発見できなかった伝承碑
出典: 7.18 水害保田復興記念誌³⁾

所在	備考
有田市下中島	島垣内道路傍
有田市星尾	秋葉山麓登口
有田市千田東	千田東公民館敷地内

3. 地元に伝承した事例

現地調査の結果をもとに、地域の防災機関や消防団へ防災研修と合わせて災害教訓の伝承も行った。

防災の寺子屋実行員会は有田川町金屋地区にある金屋文化保健センターで実施した。会場の近くには有田川水害で被災し、有田川上流から流されていた死者を吊う石碑があるため紹介した。

また、五郷消防団の中には、令和5年台風第2号で被災経験がある方の参加もあり、当時の被害概要と災害の恐ろしさを書き記した手記を紹介した。さらに、有田川水害で被害を出した、五郷地区に近接する二川地区の当時の被害状況と、近く遺された災害伝承碑災害を紹介した。

災害をより自分事として感じてもらうためには自分の住んでいる地域で起こった災害について知ることが有効な手段のひとつであると考え、参加された方は地元で発生した過去の写真や伝承碑を見て、より一層集中して聴いているように見えた(写真-3)。



写真-3 防災研修の様子

4. 動画と位置図の公開

調査結果をもとに地元の人が自分から興味を持って災害伝承碑を訪れるよう、動画や画像付きの位置図を制作した。

動画は災害伝承碑の紹介だけではなく、当時の被災状況の説明や、災害伝承碑が建てられるに至った経緯を入れた。制作した動画は有田川流域だけではなく県内全域を対象とし、合計5本の動画を公式YouTubeチャンネル

で公開した(写真-4)。再生回数は公開から約1か月で合計400回再生を超えた。また、今回の取組みは国土交通省国土地理院HPの映像作品・報道での活用事例で紹介いただき、ますます多くの方の目に留まることが期待できる。



写真-4 公開した動画のYouTubeサムネイルと
二次元コード(左:YouTube 右:国土地理院HP)

また、位置図についても県内全域を対象とし、合計38枚と96基の伝承碑(有田川流域については合計9枚と20基の伝承碑)を写真付きで作成し、ホームページで公開した(写真-5)。また、災害伝承碑の凡例の色で災害伝承碑が建てられる機会となった災害の発生時期が分かる工夫をした。



写真-5 制作した位置図と二次元コード

5. 伝承における課題と考察

有田川水害は発生から70年あまりが経過し、実際に経験したことがない世代へ移り変わっている。さらにはそれを語り継ぐ人が徐々に減少していく中、地元に残された災害伝承碑の重要性はますます増してきているといえる。しかし、文献等をもとに現地調査を行った結果から、

- ・そもそもどこにあるかわからない、もしくは知られていない。
- ・場所がわかっても目につく場所にない、もしくは隠れている。
- ・石碑に刻まれた文字が風化の進行で判読できない(写真-6)。

といった課題点も見つかった。これらは災害伝承碑が認知されていないことから生じる課題であるため、今回の調査結果をもとに制作した動画や位置図を用いて積極的に広報していくことで解決に近づくことができると考える。今後も継続して地元へ伝承していく予定である。



写真-6 風化が進行した災害伝承碑

※本論文は令和5年度第63回治山研究発表会で投稿した「災害伝承碑調査と紹介動画の制作について」の続報である。

参考文献

- 1) 宮崎徳生・筒井和男・岸畑明宏・坂口隆紀・木下篤彦：後世に伝える過去の山地災害に関する調査と防災学習の取り組みについて，第61回治山研究発表会抄録集，p23-24，2021
- 2) 和歌山県立博物館：石に刻まれた災害の記憶災害記念碑一覧
<https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/saigai/kouzui-list.pdf>, 参照 2024-2-6
- 3) 国土交通省国土地理院：自然災害伝承碑，
<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>，参照 2024-2-6
- 4) 国土交通省近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター：60年毎に繰り返される紀伊半島の歴史的な大規模土砂災害，<https://www.kkr.mlit.go.jp/kiisankei/center/img/saigaishi.pdf>，参照 2024-2-6
- 5) 7.18 水害保田復興記念誌，著者：地方行政総合研究センター編，p357
- 6) 和歌山県災害史，発行者：和歌山県